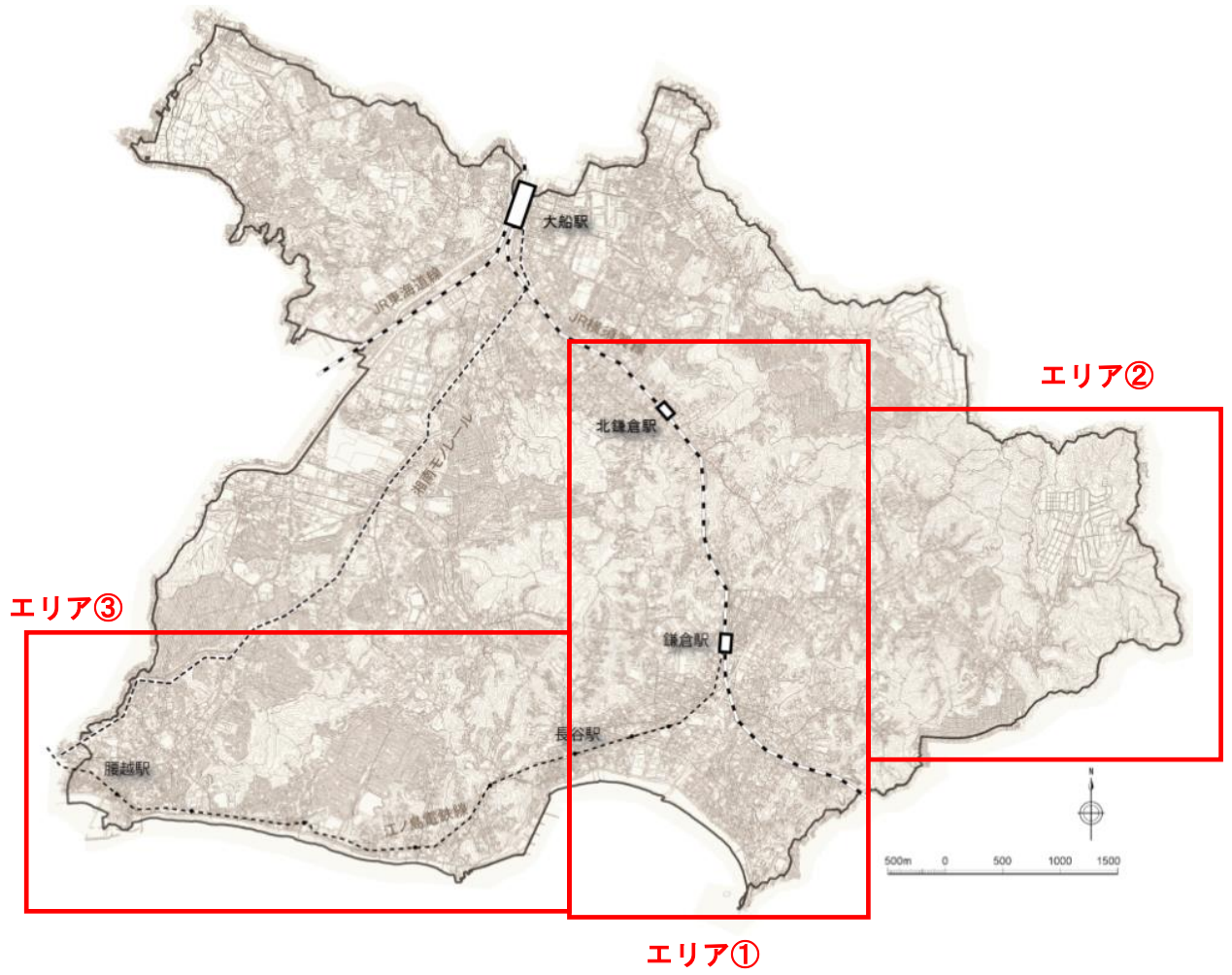


① 申請者	鎌倉市	② タイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 地域型 / シリアル型 A <input checked="" type="checkbox"/> B C <input checked="" type="checkbox"/> D E
③ タイトル			
(ふりがな)	いざ、かまくら ～ れきしとぶんかがえがくもざいくがのまちへ～		
「いざ、鎌倉」 ～ 歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>鎌倉は、源頼朝によって幕府が開かれた後、急速に都市整備が進められ、まちの中心には鶴岡八幡宮、山には切通、山裾には禪宗寺院をはじめとする大寺院が造られた。</p> <p>この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、近世には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、近代には多くの別荘が建てられたが、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は守り伝えられてきた。</p> <p>このような歴史を持つ古都鎌倉は、自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気の中に、各時代の建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業や行事など様々な要素が、まるでモザイク画のように組み合わせられた特別なまちとなったのである。</p>			

市町村の位置図



構成文化財の位置図



エリア①拡大図



出典：国土地理院ホームページ (<http://maps.gsi.go.jp/>)
地理院地図を加工して作成 (以下同じ)

エリア②拡大図



エリア③拡大図



ストーリー

【鎌倉幕府の成立】

鎌倉は、12世紀末に源頼朝が幕府を開き、貴族社会から武家社会への転換という、革命的な変化が起きた舞台であり、本格的な武家政権が誕生した地である。

鎌倉は、政権所在地となって以降、幕府によって急速に都市整備が進められた。南が海、三方を山に囲まれた内側には、まちの中心及び基軸として、政権の守護神鶴岡八幡宮とその参道の若宮大路が建設され、山には内外を結ぶために尾根を垂直に掘り下げた「切通」と呼ばれる道が開削された。また、切通近辺の山裾には、大寺院が建立されるなど、鎌倉のまちの基本構造はこの時代にほぼ確立した。

さらに、幕府は宗教政策にも積極的に取り組んだ。特に禅宗は、坐禅と問答によって悟りを開こうとする修行の形式が武士の趣向に合ったことや、茶や美術工芸など当時の最先端を行く中国文化を伴っていたことから手厚く保護され、多くの禅宗寺院が建立された。

中世都市鎌倉は、幕府滅亡後も室町幕府の東国支配の拠点(鎌倉公方)として大いに繁栄したが、公方の移転に伴って徐々に衰退し、戦国時代には静かな農漁村となった。

【鎌倉観光の先駆け】

寒村となった鎌倉にあっても、社寺は時の権力者が鎌倉を武家政権発祥の聖地として保護し続けたことから、唯一命脈を保った。特に、徳川家康をはじめとする江戸幕府の將軍家は源氏を称したため、源氏の棟梁である頼朝が造った鎌倉を重視し、鶴岡八幡宮や建長寺などの社寺の復興に尽力した。

さらに、江戸時代中期以降、歌舞伎や浄瑠璃の演目あるいは地誌などで取り上げられ、七里ヶ浜から江ノ島や富士山を望む浮世絵が頻繁に描かれるようになると、鎌倉は庶民に広く知られるところとなった。そして、頼朝ゆかりの古都、多くの社寺がある名所として、鎌倉は信仰と遊山の対象となり、江戸近郊のいわば観光地となっていった。中でも若宮大路は、その沿道に遊山客を対象とした商店、茶屋、旅籠などが軒を連ね、大いに賑わった。

【別荘地鎌倉】

江戸時代からの認知度の高さに加え、温暖な気候に恵まれ、遠浅の美しい海岸を持つ鎌倉は、まさに東京近郊のリゾート地としての条件を備えていた。

明治初年、日本医学の発展に尽くし、保養の思想を導入したドイツ人医師ベルツは、七里ヶ浜からの眺めを「日本で一番美しい地点である」と日記に残しているが、そこは東に三浦半島、南に伊豆大島、西に江ノ島、そして遙か彼方には雄大な富士山を望む絶景スポットであり、彼がそう記したのも頷ける。

その後、鎌倉は海浜保養の適地とされ、明治20年(1887年)には由比ガ浜にサナトリウム「海濱院」が建設され、海濱院は翌年「海浜ホテル」となった。この頃から多くの人々を受け入れる体制が整い始め、海水浴は瞬く間にレジャーとして定着し、次第に鎌倉の価値が見直されるようになっていった。

さらに、明治時代中期に東海道線、横須賀線が相次いで開通したこと、御用邸が造営されたことによって、多くの政界人、財界人、官僚、軍人、華族などが訪れるようになり、鎌倉には旧加賀藩



南が海、三方を山に囲まれた鎌倉のまち



鶴岡八幡宮



建長寺

賑わう若宮大路の様子
〔「諸国道中金の草鞋」より〕

前田家別邸（現鎌倉文学館）をはじめとする別荘が建てられた。これを契機に、近代都市としてのまちづくりが進められることになった。

こうした中で、別荘に由来する様々な営みが発展した。日本的な草花の絵柄を中心とした力強い彫刻に、柔らかさと温かみを備えた漆を塗ることを特徴とする「鎌倉彫」は、鎌倉を代表する工芸品であり、土産物や贈答品として重宝されている。これは、仏像や仏具などを製作していた仏師たちが、明治時代に廃仏毀釈によって需要が激減したとき、別荘を構えた上流階級のニーズに合わせ、家具や調度品の製作を主体とするようになり、それが鎌倉彫として広まったものである。

また、別荘に暮らす顧客への品質の高い商品の提供や、別荘を訪問し注文を受け、それぞれの要望に細かく応えるニーズに応える「御用聞き」などのサービスが展開され、鎌倉の商業形態の一つとして確立した。

【鎌倉文士】

別荘地として発展していくにつれ、東京からほど近く最も身近な古都であった鎌倉には、多くの文人墨客が住まうようになり、活発な文芸活動が展開された。当初は白樺派を中心とした作家たちが集住していたが、その後、日本人で初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成や、時代小説「鞍馬天狗」で知られる大佛次郎など、志を同じくする者たちが追随し、彼らはやがて「鎌倉文士」と呼ばれるようになった。彼らは、中世以来脈々と続く古都鎌倉の趣に憧憬を抱き、社寺がたたずみ静寂さが漂う谷戸に洋風・和風の住宅を建て文筆活動に励んだ。その作品には鎌倉の社寺やまちなみが数多く登場する。

鎌倉文士は地域にも貢献したが、最も象徴的な出来事は「御谷騒動」である。鎌倉にも昭和 35 年頃から宅地造成の波が押し寄せ、聖域ともいえる鶴岡八幡宮の裏山「御谷」にまで開発の手が伸びた。この時、彼らは市民や僧侶らと共に開発現場でブルドーザーの前に立ちはだかり、反対運動を行った。結果的に御谷は守られ、これがきっかけとなり古都保存法が制定されたことによって、歴史的遺産と緑とが調和した鎌倉特有の景観が守られることとなった。

また、鎌倉文士はかつて夏の風物詩であった「鎌倉カーニバル」や、今も続く鶴岡八幡宮の「ぼんぼり祭」などを発案し、まちを盛り上げた。夕暮れ時、鎌倉在住の作家、画家、書家など各界で活躍する人々が描いたぼんぼりが境内に一直線に灯された様は、中世と近代が融合した象徴的な風情である。

そして、近代の鎌倉では、鎌倉文士のみならず、映画監督の小津安二郎をはじめ、俳優や画家など多くの芸術家も暮らしたことから、古都としての歴史に加え、近代芸術の新たな文化を創出するまちとなった。

【歴史と文化が描くモザイク画】

頼朝が鎌倉幕府を開いてより 800 有余年。この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、江戸時代には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、明治時代から大正時代には別荘が建てられ、近代都市としてのまちづくりが進められた。そうした中であっても、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は、多くの人々によって守り伝えられてきた。

このような歴史を持つ古都鎌倉は、自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気の中に、各時代の建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業や行事など様々な要素が、まるでモザイク画のように組み合わせられた特別なまちとなったのである。



鎌倉文学館（旧前田家別邸）



鎌倉彫



鎌倉カーニバルの様子



ぼんぼり祭

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	つるがおかはちまんぐう 鶴岡八幡宮	国史跡、 国重文(建造物)、県史跡、市指定 (建造物、天然記念物)	源頼朝が鎌倉のまちの中心に据えた、武家政権の守護神。 武家政権と武家から篤く崇敬されたことに加え、幕府の宗教政策上の中心的な施設として、公式行事が執り行われるなど、政治・儀礼の舞台としても重要な場所であった。	
2	わかみやおおじ 若宮大路	国史跡、国重文(建造物)	鶴岡八幡宮の参道。頼朝が妻・政子の安産を願って造ったもので、中世から変わらず「鎌倉」の中心軸となる道である。 中央に一段高い道、段葛 <small>だんかづら</small> がある。	
3	えがらてんじんしゃ 荏柄天神社	国史跡、重文(建造物)	頼朝により、幕府の鬼門(北東)を鎮護する神として祀られた。また、鎌倉文士が中心となって立ち上げた鎌倉ペンクラブの一員であった漫画家横山隆一による絵筆塚がある。	
4	かまくらぐう 鎌倉宮	未指定	明治天皇の勅命によって創建され、南北朝期に非業の死を遂げた護良親王 <small>もりなが</small> を祭神とする神社。創建後、皇族や華族が鎌倉を訪れ、御用邸、別荘が建てられる契機の一つとなった。 作家立原正秋がここで執り行われる能を題材として『薪能』を著わすなど、文士の創作の舞台ともなった。	
5	ごりょうじんじや 御霊神社	県指定(無形民俗)、市指定(有形民俗)、市(天然記念物)	鎌倉の特徴的行事の一つで、中世の「伎楽面風流」に起源があるとされる面掛行列が行われる。 小説家で詩人の国木田独歩が境内やその近くに住むなど、文士の創作活動が行われた。	

6	こゆるぎじんじや 小動神社	未指定	海に突き出した小動山に建ち、相模湾を一望する。頼朝に仕えた佐々木盛綱による創建。 小説家太宰治が小動岬で心中を図り、その体験を『道化の華』に著わすなど、文士の創作の舞台となった。
7	せにあらいてんざいてん う が ふくじんじや 銭洗弁財天宇賀福神社	未指定	文治元年(1185)の巳の月の巳の日に宇賀福神が頼朝の夢に現れ、その教えに従いこの地に宇賀福神を祀ったところ、平安な世が訪れたとの言い伝えがある。
8	かまくらだいぶつ 鎌倉大仏 (銅造阿弥陀如来坐像)	国史跡、 国宝(彫刻)	武家政権と民衆の安寧を願って造立された鑄造仏。 中世に鑄造されたときそのまま露座に佇むその姿は、多くの作品の題材となった。 長谷の大仏裏に住んでいた大佛次郎は筆名を、大仏を太郎とし、自らは次郎と謙遜し名付けたとのエピソードがある。歌人と謝野晶子が「美男におはす」と詠んだことでも知られる。
9	けんちやうじ 建長寺	国史跡、重文(建造物)、 国名勝、県指定(建造物)、 市指定(天然記念物)	鎌倉五山の第一位。鎌倉時代、第五代執権北条時頼によって建立された日本初の禅宗専門寺院。 付近には亀ヶ谷坂の切通があり、鎌倉の交通上・防衛上の重要な箇所だった。
10	えんがくじ 円覚寺	国史跡、 国宝(建造物)、 県指定(建造物)、 市指定(建造物、天然記念物)、 国名勝	鎌倉五山の第二位。建長寺に続き建立された禅宗専門寺院。 夏目漱石が『門』の中で描いた他、島崎藤村、有島武郎らも執筆のために訪れるなど、多くの文士の創作の舞台や創作活動の場となった。
11	じゆふくじ 寿福寺	国史跡、市指定(建造物、 天然記念物)	鎌倉五山の第三位。頼朝の父、源義朝の館跡と伝えられ、源氏の由緒を示す。茶を広めた栄西がひらいた鎌倉最初の禅宗寺院。 詩人中原中也が亡くなる直前に境内に住まうなど、文士の創作活動の場となった。
12	じやうちじ 浄智寺	国史跡	鎌倉五山の第四位。第五代執権北条時頼の三男である北条宗政の菩提を弔うために創建された禅宗寺院。 日本画家小倉遊亀が近くに暮らし、創作活動を行った。

13	じょうみょうじ 浄妙寺	国史跡	鎌倉五山の第五位。頼朝の忠臣で剛勇の武士であった足利義兼によって創建された。 室町時代に鎌倉公方として東国の政権を担った足利氏の菩提寺。
14	すぎもとでら 杉本寺	県指定（建造物）	天平の頃に建立されたと伝わる鎌倉最古の寺院。頼朝が修造を行った。
15	ほうかいじ 宝戒寺	未指定	北条氏滅亡後、その霊を弔うため、北条氏得宗家の屋敷跡に建立された。
16	かくおんじ 覚園寺	国史跡、重文（建造物）、 県指定（建造物）、 県史跡	第二代執権北条義時が1218年に大倉薬師堂を建立したのが始まり。1296年に真言・天台・禅・浄土の四宗兼学道場として整備された。境内は中世の面影をよく残している。
17	じょうこうみょうじ 浄光明寺	国史跡、重文（建造物）、 市指定（建造物）、 市史跡	第六代執権北条長時が創建。室町時代には鎌倉公方の菩提寺となった。亀ヶ谷坂の切通近くに位置し、鎌倉の交通上及び防御上の最も重要な地域に営まれた寺院である。
18	みょうおういん 明王院	未指定	鎌倉幕府の第四代将軍藤原頼経により国家の安泰を祈願して建立され、以後、幕府・将軍家の祈願所として重んじられた。鎌倉将軍家建立の寺としては現存する唯一のものである。
19	じょうじゅいん 成就院	市文化財（建造物）	第三代執権北条泰時により、鎌倉の守りとして極楽寺坂脇に建立された。1333年、幕府が滅亡した鎌倉攻めの際に焼失し、一時別の場所に移されたが、江戸時代に元の場所に再建された。
20	えいしょうじ 英勝寺	重文（建造物）	徳川家康の側室となったお梶の方が祖先太田道灌の屋敷跡に建立させた。徳川光圀が鎌倉や武州金沢の史跡・名勝を巡覧した際、宿所とした。
21	こうみょうじ 光明寺	重文（建造物）、 県指定（建造物）、 市指定（建造物）、 市史跡	浄土宗の大本山。第四代執権北条経時の創建。 戦後復興の過程で、文人・学者等が集まって開校した市民大学「鎌倉アカデミア」の仮校舎となった。

22	めいげついん 明月院	国史跡	山ノ内俊道追善の為、嫡子経俊が創建の明月庵が元。約百年後第五代執権北条時頼が出家のため建立した最明寺を前身に、息子時宗が禅興寺を再興。更に百年後、上杉憲方が支院の首位に置く。時代の変遷とともにその由緒を伝えている。
23	ほうこくじ 報国寺	未指定	竹寺として知られる禅宗寺院。足利氏の祖先供養のため上杉氏が開いた。
24	とうけいじ 東慶寺	未指定	第八代執権北条時宗夫人の覚山志道尼が開創。駆け込めば離縁できる女人救済の寺として、明治に至るまで縁切りの寺法を引き継いできた。
25	ずいせんじ 瑞泉寺	国史跡、国名勝	鎌倉公方の菩提寺とされた禅宗寺院。岩盤を穿った庭園は、禅の思想と庭が融合したものである。鎌倉における禅宗文学の中心の一つ。作家永井龍男が『秋』の舞台とするなど、文士の創作の舞台となった。
26	ほんがくじ 本覚寺	未指定	境内は「吾妻鏡」に見える夷堂の地といわれている。身延山から日蓮の遺骨を分骨して納められた。
27	みょうほんじ 妙本寺	未指定	日蓮開山の、日蓮宗最古の寺院。北条一族によって滅ぼされた比企一族を弔うために建立された。
28	あんこくろんじ 安国論寺	未指定	日蓮宗の寺院。日蓮が草庵を結び「立正安国論」を著わした場所とされる。
29	ごくらくじ 極楽寺	国史跡、重文(建造物)	第二代執権北条義時の三男、重時が建立した真言律宗の寺院。極楽寺坂の切通という鎌倉から京都方面へ向かう交通上また防衛上の重要な箇所配置された。
30	はせでら 長谷寺	市文化財(建造物)	古くから坂東観音霊場の第四番札所として民衆の信仰を集めてきた。評論家高山樗牛が境内の慈眼院やその隣接地に居住するなど、文士の創作活動の場となった。

31	おおまちしゃかどうぐち 大町釈迦堂口遺跡	国史跡	釈迦堂切通は、浄明寺と大町を往来する道。 作家永井路子が『炎環』を著わすなど、文士の創作の舞台となった。
32	ほっけどうあと 法華堂跡 (源頼朝墓・北条義時墓)	国史跡	頼朝と第二代執権北条義時の死後の冥福を祈る建物(法華堂)が建てられた跡であり、現在は石塔が建っている。
33	ようふくじあと 永福寺跡	国史跡	頼朝が、奥州藤原氏、弟源義経をはじめ合戦による戦死者の冥福を祈って建設した寺院跡。将軍家の別荘的性格も持っていた。当時の伽藍配置やその変遷、苑池や遣水などの遺構が復元されている。
34	あさいなきりどおし 朝夷奈切通	国史跡	中世都市鎌倉の内外を結ぶための交通路として造られた。
35	けはいざか 仮粧坂	国史跡	
36	だいぶつきりどおし 大仏切通	国史跡	
37	なごえきりどおし 名越切通	国史跡	
38	鎌倉文学館 (旧前田家鎌倉別邸)	国登録有形文化財	
39	きゅうかちょうのみやてい 旧華頂宮邸	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	鎌倉三大洋館の一つ。華頂博信侯爵が自身の邸として建てた。洋風民家が幾何学式庭園、樹木と一体となり、往時の華やかな暮らしを彷彿とさせる。

40	きゅうかわきたていべつてい 旧川喜多邸別邸 (旧和辻邸)	景観重要建造物	生涯を通じて外国映画の輸入と配給、海外への日本映画紹介などに情熱を注いだ川喜多夫妻ゆかりの建物。東京にあった哲学者和辻哲郎の住宅を移築したもので、もとは大山にあった古民家を解体移築したと伝わる。夫妻はここを海外から訪れる映画監督やスターたちを迎える場とした。
41	せんこさんそう 扇湖山荘	未指定	古都鎌倉の風情に惹かれた「ワカモト製菓」創業者の長尾欽彌が別荘として建てた。杉木立から海が扇形に見えることから名付けられた。
42	きゅうもろとてい 旧諸戸邸	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	株式仲買人として財を成した福島浪蔵の別邸として建てられ、後に諸戸清六別邸となった。明治期の住宅建築の貴重な遺構であり、造形意匠の密度においては、県内でも最高のものである。
43	よしやのぶこ 吉屋信子記念館	国登録有形文化財	小説家吉屋信子が暮らした邸宅が、ありし日のままに保存されている。建物は、吉田五十八（近代数寄屋建築の第一人者）により設計されたもの。
44	石川邸 きゅうさとみとんてい (旧里見淳邸)	市景観重要建築物等	鎌倉文士の中心的存在であった作家里見淳が自ら設計に関り、住んだ家である。
45	こがてい 古我邸	未指定	鎌倉三大洋館の一つ。三菱合資会社（後の三菱財閥）の専務理事兼管事をしていた荘清次郎の別荘として建てられた。
46	らいてい 櫛亭	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	鎌倉山の分譲を行った菅原通済の父であり、鉄道事業家・土木技術者として知られる菅原恒覧の別荘として建てられた。 本館は、江戸時代の建造で横浜市戸塚の豪農の旧宅を移転改築し、和洋折衷の住宅としたもの。
47	すんしょうどう 寸松堂	市景観重要建築物等	別荘地化の中で発展した鎌倉彫、その歴史を今に伝える商店兼住宅として貴重な存在である。
48	はくじつどう 白日堂	市景観重要建築物等	別荘地化の中で発展した鎌倉彫、その歴史を今に伝える商店兼住宅として貴重な存在である。
49	みかわや 三河屋本店	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	明治 33 年創業の酒店で、伝統的な出桁造りの店構えが若宮大路の沿道でひときわ目を引く。観光地として発展した鎌倉の姿を想起させる。

50	ゆあさ 湯浅物産館	市景観重要建築物等	明治 30 年に貝細工の製造加工・卸売りの店舗として創業した。若宮大路の中ほどに位置し、観光地として発展した鎌倉の姿を想起させる。
51	やぶさめ 流鏑馬	未指定	武者姿の射手が疾走する馬上から 3 つの的を射抜く鎌倉時代からの伝統神事。頼朝が鶴岡八幡宮の放生会で奉納した流鏑馬が始まりとされる。
52	ぼんぼり（雪洞）祭	未指定	毎年 8 月に鶴岡八幡宮境内で行われる、鎌倉の夏の風物詩ともいえる祭。鎌倉ペンクラブのメンバーが中心となってぼんぼりを並べたのが始まり。
53	鎌倉名所記	未指定	江戸時代の鎌倉の名所をまとめた案内記。名所めぐりの際に携帯するためのいわばガイドブックである。
54	かまくらぼり 鎌倉彫	経産省大臣指定伝統的工芸品	鎌倉を代表する伝統的工芸品。13 世紀半ばに禅宗の移入に伴い宋から伝えられた美術工芸品を祖とする。近代以降、鎌倉が別荘地となる中で発展、浸透した。
55	きゅうかながわけんりつきんだい 旧神奈川県立近代 びじゅつかんかまくらかんほんかん 美術館鎌倉館本館	県指定（建造物）	現代建築の巨匠ル・コルビュジエに師事した坂倉準三設計の建築で、日本初の公立近代美術館。日本の近代美術を牽引すると同時に、近代芸術の新たな文化を創出した拠点の一つ。
56	しんれいきょうかまくらけんせいじょう 神霊教鎌倉錬成場 きゅうやまもとじょうたろうてい （旧山本条太郎邸）	国登録有形文化財（建造物）	南満州鉄道株式会社総裁を務めた山本条太郎の別荘として建てられた。敷地や庭も含め、創建当初の建物がほぼ完全に現存しており、当時の生活像をうかがうことができる貴重な建物。

- (※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

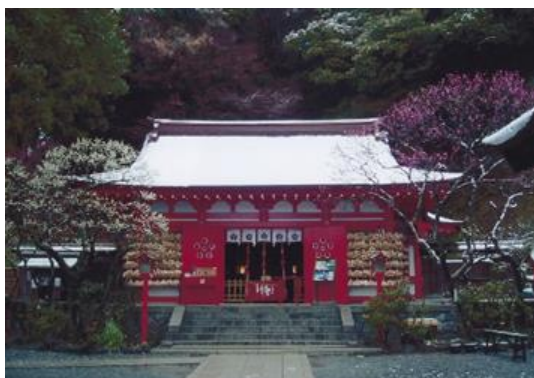
1 鶴岡八幡宮



2 若宮大路



3 荏柄天神社



4 鎌倉宮 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



5 御霊神社 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



6 小動神社



7 錢洗弁財天宇賀福神社



8 鎌倉大仏 (銅造阿弥陀如来坐像)



9 建長寺



10 円覚寺



11 寿福寺



12 浄智寺



13 浄妙寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



14 杉本寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



15 宝戒寺 (写真提供: 公益社団法人鎌倉市観光協会)



16 覚園寺



17 浄光明寺



18 明王院



19 成就院



20 英勝寺



21 光明寺



22 明月院



23 報国寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



24 東慶寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



25 瑞泉寺



26 本覚寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



27 妙本寺



28 安国論寺



29 極楽寺



30 長谷寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



31 大町釈迦堂口遺跡

(写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



32 法華堂跡 (源頼朝墓・北条義時墓)



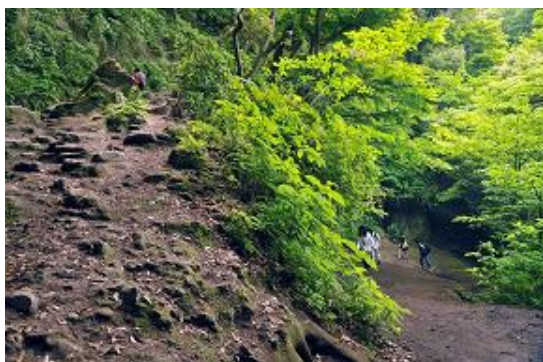
33 永福寺跡



34 朝夷奈切通



35 仮粧坂 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



36 大仏切通



37 名越切通 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



38 鎌倉文学館 (旧前田家鎌倉別邸)



39 旧華頂宮邸



40 旧川喜多邸別邸 (旧和辻邸)



41 扇湖山荘



42 旧諸戸邸



43 吉屋信子記念館



44 石川邸 (旧里見惇邸)



45 古我邸



46 榎亭



47 寸松堂



48 白日堂



49 三河屋本店



50 湯浅物産館



51 流鏝馬 (写真提供: 公益社団法人鎌倉市観光協会)

鎌倉まつり



鶴岡八幡宮例大祭



52 ぼんぼり (雪洞) 祭

(写真提供: 公益社団法人鎌倉市観光協会)



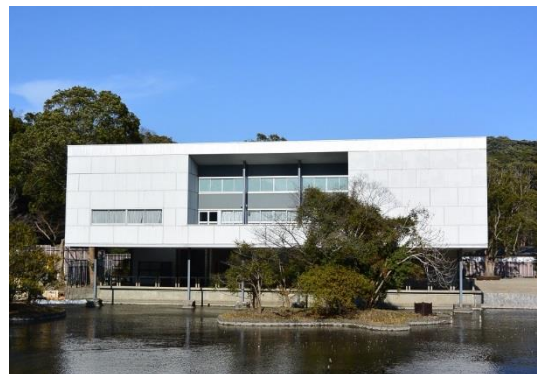
53 鎌倉名所記



54 鎌倉彫



55 旧神奈川県立近代美術館鎌倉館本館



56 神霊教鎌倉錬成場 (旧山本条太郎邸)



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
25	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～

(1) 将来像 (ビジョン)

1 はじめに

『第3期鎌倉市観光基本計画』では、市民憲章や第3次鎌倉市総合計画の「世界の鎌倉であることの誇り」、「世界に誇る貴重な歴史的文化的遺産」という概念を引き継ぎ、『鎌倉の持つ様々な魅力や価値が世界に誇る貴重な財産であることを認識し、観光に携わるあらゆる主体が連携・協力して、誰もが「住んでよかった、訪れてよかった」と思える成熟した観光都市を目指します。』という基本理念を掲げている。これらを踏まえ、日本遺産を活用することで、中長期的にどのようなまちの姿を目指していくか、次に記載する。

2 来訪者・市民・民間事業者等の姿

日本遺産ストーリーを通じ、鎌倉の歴史的、文化的な価値を内外に紹介することで、鎌倉に関わる全ての方に、まちの魅力を更に深く理解していただくとともに、新たな魅力を発見していただく。これにより、来訪者の滞在時間の延長、宿泊型観光の促進といった鎌倉観光に係る課題の解決を図っていく。また、特定の場所に偏っていた来訪者が、多様な構成文化財を巡り分散化につながることで、来訪者、市民にとって快適な環境を生み出し、双方の満足度を高めていく。そしてこれらの実現による観光消費額の向上の効果が民間事業者へ波及し、地域が活性化するという好循環を目指していく。

3 文化資源の保存・継承と活用

まずは、指定・登録文化財や歴史的風致形成建造物、市指定景観重要建築物等など、従来の法令に基づく文化資源の「保存・継承」の土台の上で、日本遺産ストーリーを通じ、これらの有機的な結びつきを啓発するとともに、ストーリーにもある「御谷騒動」に始まる鎌倉の文化資源の保存・継承の歴史を周知し、これらを守り伝えることの大切さを広く認識してもらう。更に、『鎌倉市歴史的風致維持向上計画』にも記載のとおり、「生きている歴史的遺産」である社寺は現在も文化資源において宗教活動を続けているが、近代の別荘建築物等についても民間事業者による「活用」を促進することで、「保存・継承」との循環を創出する。そして、これらの活動によって子どもたちの郷土愛を育むとともに、課外授業等で鎌倉を訪れる学生や観光客の再来訪意識を高め、文化資源の保存・継承、活用を通じた地域活性化の好循環を、持続可能な形で目指していく。

4 長期的構想への位置づけ

日本遺産に関わる行政計画である、総合計画、観光基本計画、歴史的風致維持向上計画は、令和7年度(2025年度)末で計画期間が終了し、令和8年度(2026年度)から新たな計画期間に入る。これらの計画の中に、上記の考え方を盛り込み、日本遺産を活用したまちづくりに係る事項を位置づけ、取組みを継続的に推進していく。また、令和2年(2020年)6月に策定した『鎌倉市にふさわしい博物館基本構想』においても、博物館、市民団体、社寺等とのネットワークを構築し、地域とともに歴史遺産を守り伝えることを目指しており、当該構想との連携も図りながら、将来像の実現に向けた取組みを進めていく。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：日本遺産案内施設における来訪者数（千人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	259	188	202			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	—	—	—	—	—	—
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産ストーリー体験への入り口として、日本遺産案内施設を設置し、施設の来訪者数を指標として設定。2022年度の目標設定では、2024年度までに、コロナ禍前の観光案内所利用者数約20万人に回復する目標設定していた。2025年度からは①-Bの指標に替える(2024は3月までの予測値)					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：鎌倉観光公式ガイドのPV数（万回）【新設】						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	—	—	—			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	650	655	660	665	670	675
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	鎌倉の日本遺産について知りたい方は、まずWEBサイトを閲覧すると考えられるため、日本遺産へのアプローチの入口として、観光ホームページの閲覧数を設定する。2023年度635万回、2024年度645万回の数値を基準として目標を設定した。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：鎌倉市民の日本遺産認知度（市民意識調査）（％）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	30	31	34			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	35	36	38	40	45	50
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		鎌倉市民における日本遺産の認知度を市の総合計画の評価指標を計るため実施している、市民意識調査により把握する（2024年度は2月19日時点での値）。				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－B：地域の文化に誇りを感じる住民の割合（％）【新設】						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	—	—	—			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	89.5	90.0	90.5	91.0	91.5	92.0
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		本市が「豊かな歴史的遺産が大切に保存され、伝統的な文化が保存・継承されているまち」だと思う市民の割合。市民意識調査により把握する。2022年度87.4%、2023年度89%の数値を基準として目標を設定した。2025年度から追加。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産関連ツアーの売上（千円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	3,422	5,545	5,431			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	—	—	—	—	—	—
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産関連ツアーの参加人数に参加費用を乗じた売上。事業費相当額の売上を目標とする。2025から③－Bの指標に替える。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－B：日本遺産ガイドツアーの観光消費額（千円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	—	—	—			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	3,880	8,223	9,147	10,699	11,623	12,547
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産ガイドツアーの参加人数に日帰り客、宿泊客の観光消費額を乗じた数とする。2023年度の観光消費額、日帰り客7,773円/人、宿泊客31,409円/人から想定して目標を設定した。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：ふるさと納税寄附額（千円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	379,665	309,967	368,196			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	378,000	396,900	416,745	437,582	459,461	482,434
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産の持続的な保存には金銭的な負担が必須となるため、日本遺産の保存・活用等を目的としたふるさと納税の寄附額を指標とする。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：観光消費額（億円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	517	603	710			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	728	747	766	784	802	820
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	市内各地に点在する日本遺産への認知向上と、構成文化財の周遊観光により滞在時間が増加し、最終的に全体の観光消費額に現れるため指標として設定する。数値は神奈川県入込観光客調査を基に作成する「鎌倉市の観光事情」より取得。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

【これまでの成果・課題と地域の現状】

平成28年度（2016年度）認定後、ブックレットや動画、ホームページ、各種イベントへの出展等で周知啓発活動に取り組んできたが、令和4年度（2022年度）の地域活性化計画策定後は、これを元に、日本遺産事業推進担当者の配置、日本遺産「いざ、鎌倉」観光案内所や案内板の新設、HPの充実やSNS発信など、短期間で更に多様な取組みを進めることができた。

また、鎌倉の日本遺産ストーリーは中世から現代までの歴史を包括的にまとめたものであることから、ストーリーを時代やテーマ毎に細分化し解説することで、魅力や価値を分かりやすく理解してもらうための情報発信にも力を入れてきたほか、イベント出展の際には構成文化財関係者に物販を行っていただくなど、地域と連携した取組みを進めてきた。

一方、来訪者、市民ともにまだまだ日本遺産に係る認知度が高いとは言えず、ストーリーを理解していただくには、地域の関係者とともに更に事業を展開していく必要がある。

コロナ禍後の地域の現状として、インバウンドを含めた国内外の旅行者が、時間的、場所的に集中して来訪しているオーバーツーリズムの傾向があり、文化資源の磨き上げとともに、ストーリーを通じた魅力発信による、市の観光課題の解決に取り組む必要があるため、ストーリーへの理解、市内の周遊を促進することを目指し、現地の整備にも取り組む。

上記を踏まえ、次の取組みを重点的な柱とすることで、将来像の実現を目指していく。

【取組みの柱①：情報発信・普及啓発事業】

(1) 日本遺産を知る催しの開催【重点】：構成文化財そのものを知る講座や展示等とあわせて、その文化資源の日本遺産ストーリーの中での位置づけを周知することで、鎌倉の新たな魅力を発見いただき、更には滞在時間延長、宿泊型観光につなげる。事業の実施にあたっては、構成文化財の関係者や民間事業者などと連携し、必要に応じて参加費を徴収し、構成文化財の保存に還元するなど、持続可能な取組みとする。

(2) HPの多言語化：鎌倉観光のウェブサイト「鎌倉観光公式ガイド」内に、日本語、英語、中国語での日本遺産サイトを開設しているが、更に言語数を拡大することで、世界に向けて鎌倉の日本遺産ストーリーを発信できる体制を充実させる。

(3) 現地の整備【重点】：各構成文化財間の周遊を促すルート板の設置、各構成文化財の魅力発見につながる解説板の作成により、初めて訪れる観光客にとっても日本遺産ストーリーの魅力に触れられる観光地を目指す。

(4) 全戸配布の広報紙や観光案内所での普及啓発：全戸配布の広報紙等で日本遺産の周知を図り、市民の理解度を向上させる。また、日本遺産「いざ、鎌倉」観光案内所等において、日本遺産ブックレット、周遊マップを配布するほか、動画コンテンツを投影し、日本遺産についてもっと知りたくなる仕組み作りを進める。

(5) 地域事業者と連携したイベントへの出展：日本遺産フェスティバル、日本遺産の日等のイベントにおいて、関係団体と共同出展し、物販を行うなど、さまざまな角度から鎌倉の日本遺産ストーリーに興味を持っていただけるよう工夫する。

(6) 民間事業者と連携した関連商品の販売【重点】：民間事業者に日本遺産ロゴマークを周知し、関連商品の販売の際に活用いただくことで、地域活性化を促す。

(7) 博物館展示及び建造物特別公開等による理解促進：博物館における構成文化財に係る展示及び解説や、建造物の特別公開及び解説等により、来訪者の理解を深め、新た

な魅力を発見していただくとともに、来訪場所の分散化を図る。また、改修等のため公開していない鎌倉文学館等の別荘建築について、公開後の日本遺産展示を実施する。

- (8) 日本遺産ストーリーの理解促進【重点】：訪れる観光客に、鎌倉の日本遺産ストーリーの理解をより深めていただけるよう、サブストーリーごとに各構成文化財を分類して紹介するなど、観光客が様々な「モザイク画のまち」を気軽に体験できるよう周知することで、日本遺産ストーリーの理解促進を図る。

【取組みの柱②：ストーリーの語り手と地域の担い手の育成】

- (1) 観光ボランティアガイド等に向けた研修支援【重点】：既にガイド団体等と連携し日本遺産に係る案内事業を行っているが、ガイド側にも更に深く日本遺産を知っていただき、それを伝えられるよう、講義やガイド向けテキストの作成、頒布を行う。

- (2) 大学等教育機関との連携：協議会構成団体と包括連携協定を結んでいる大学と連携し、日本遺産を知っていただく講義の実施、副教材としてのブックレット配布などを通じて、次世代育成を図る。

- (3) 教育コンテンツの充実：首都圏から課外授業等で訪れる学生が日本遺産を通じて分かりやすく鎌倉の歴史文化を学ぶことができるよう動画等のコンテンツを作成し、まちの魅力を分かりやすく伝えるとともに、訪れる学生等の再来訪意識を高め、将来に渡る地域活性化を推進する。また、当該コンテンツを市内外の生涯学習にも役立てていただくことで、全世代に日本遺産ストーリーを通じた鎌倉の歴史文化の学び直し、理解促進による更なる鎌倉ファンの拡大を目指していく。

- (4) 博物館等での構成文化財に係る知見の収集と分析：鎌倉歴史文化交流館及び鎌倉国宝館を中心に、市域全体を屋根のない博物館に見立てた「フィールドミュージアム」を構築し、地域とともに学術的な現地調査（フィールドワーク）を実施することにより、市内各地に点在する歴史遺産の把握と再発見を目指す。この活動で得られた知見を教育や観光の資源として活用していく。またフィールドワークを通じて地域の人々の郷土愛を育み、歴史遺産の持続可能な保存活用へ結び付けていく。

【取組みの柱③：観光課題の解決】

- (1) 分散型観光、宿泊型観光の推進【重点】：全ての構成文化財の認知度を底上げすることで、分散型観光、宿泊型観光を推進する。市内の混雑地点10地点の1週間前までの混雑実績及び1週間後までの混雑予測をウェブ上で公開している「鎌倉観光混雑マップ」を用い、観光客の時間的な分散に係る行動変容を図るとともに、徒歩や公共交通機関を利用したモデルルートを発信することで場所的な分散を促進し、快適に日本遺産ストーリーを体験できる環境を整える。

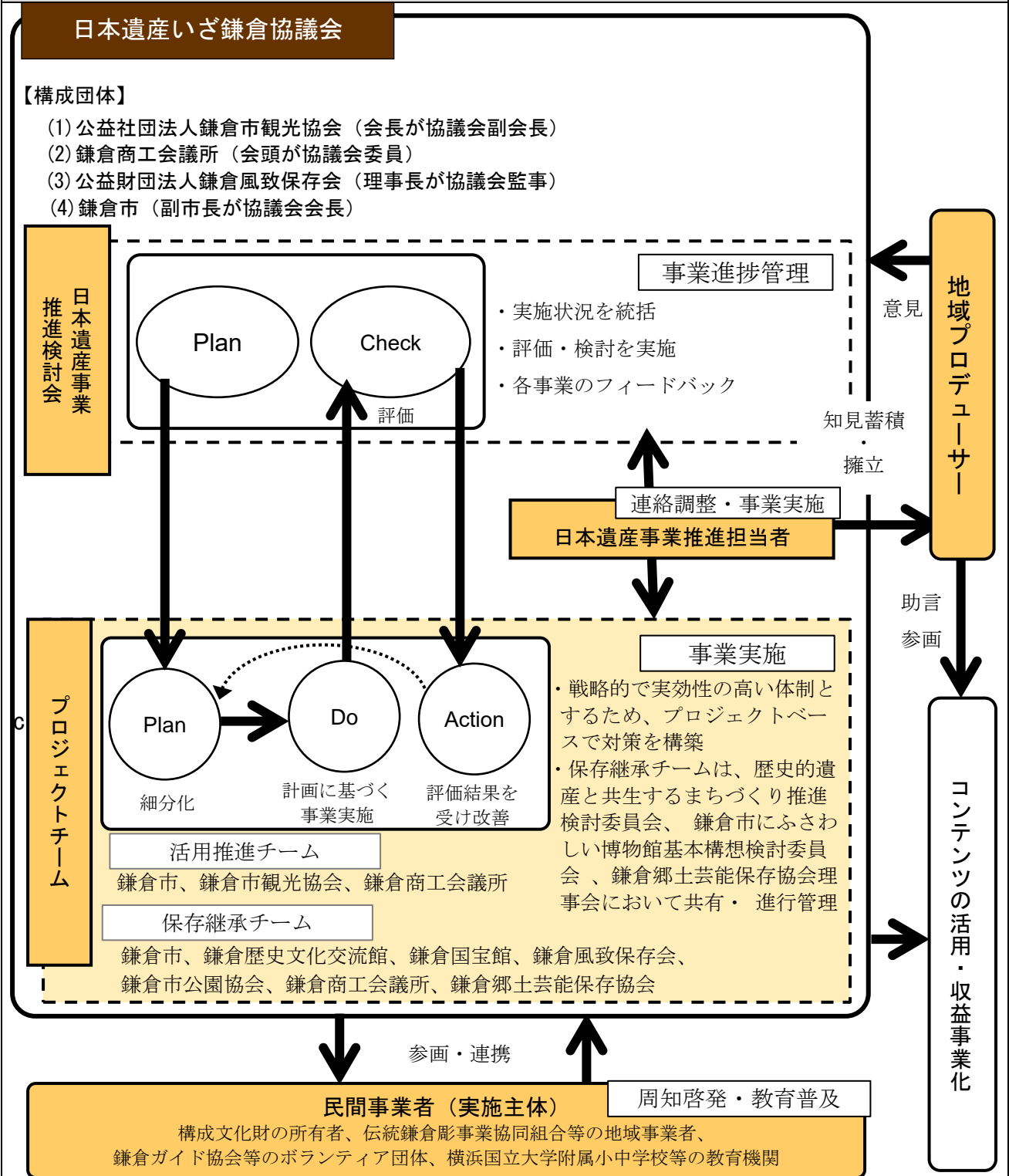
- (2) ガイドによる歩く観光の推進：ガイド団体と協力し、日本遺産の構成文化財を歩いて巡るツアーを開催することで、鎌倉の観光課題である交通混雑の緩和に貢献するとともに、日本遺産ストーリーを体感していただく取組みを実施する。

- (3) 朝夜観光の推進：「鎌倉観光公式ガイド」に、日本遺産をテーマとした朝夜観光のコンテンツを作成し、鎌倉市の観光課題の一つである時間的な集中の分散化や宿泊型観光の促進につなげる。

- (4) 伝統的工芸品「鎌倉彫」との連携：構成文化財である鎌倉彫の制作体験との連携を図る。体験コンテンツ充実による滞在時間の延長、観光消費額の拡大にも貢献する。

- (5) ふるさと寄附金による運営財源の確保：歴史的遺産や文化財を確実に未来へ引き継ぐことを目的としたふるさと寄附金を募集し、組織運営及び事業実施の原資とする。
- (6) 観光統計データの収集及び公開：神奈川県観光振興対策協議会の基準による入込観光客数調査、アンケート調査のほか、市内観光に係る様々な統計データを収集し、公開するとともに、データを日本遺産に係る企画立案に活用する。
- (7) 行政計画への位置づけ：本市の最上位計画である総合計画、観光基本計画、歴史的風致維持向上計画は、令和8年度（2026年度）から新たな計画期間に入る。これらの計画に、日本遺産を活用したまちづくりに係る事項を位置づけ、取組みを継続的に推進していく。

(4) 実施体制



[人材育成・確保の方針]

- ・文化資源の保存活用と観光戦略、両方の視点をもった人材の育成を図る。協議会構成団体に連携し人材育成を行うことは勿論、ガイドの育成を継続して実施する。育成講座の開催のほか、ガイド向けに案内スキル向上のためのテキストを作成し、自ら継続して学ぶことのできる体制を構築する。
- ・フィールドミュージアムにおいて、博物館学芸員が学生や有識者、構成文化財の所有者、地域の人々やボランティアガイド等と共にフィールドワークグループを組織し、学術的かつ悉皆的な市内の歴史遺産の調査を実施する。この活動に幅広い関係者が加わることで、歴史遺産の保存に係る意識を醸成するとともに、ボランティアガイドに学術的な知見を蓄積することで、ガイド事業を通じた歴史遺産の活用事業にも波及させていく。
- ・民間事業者との連携については、伝統鎌倉彫事業協同組合等と協力してイベント出展等を行い、構成文化財に係る技術を受け継ぐ人材の確保と育成を図る。
- ・これまでも協議会構成団体が包括連携協定を締結している大学等や外部専門家と協働し、文化資源を活用したまちづくりについて連携を行ってきており、引き続き、教育機関との連携を通じ、知見・ノウハウを蓄積していく。
- ・学校教育との連携では、出張講座等を実施し受講してもらうだけでなく、フィールドワーク等により、日本遺産ストーリーを通じて自ら地域の歴史について考え、未来に向けた保存、活用のために行動できる人材を中長期的な視点で育成していく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

- ・ふるさと寄附金の返礼品について、構成文化財を活用した魅力的な品を増やす工夫を行うことで、更なる財源の確保を図っていく。
- ・構成文化財の所有者等においては、国・県・市の補助制度や個人等からの寄附金を活用し、保存修理、周知啓発事業を行っていく。
- ・日本遺産事業推進担当者は、着地型観光事業と連携し、構成文化財に係る講座の開催や体験教室等の商品化を進めることで、財源を確保していく。
- ・流鏝馬や鎌倉彫等の継承者と協力してイベント等を開催し、財源を確保する。
- ・民間事業者と連携し、日本遺産マークを活用した関連商品について、流通する商品量を増やす取組みを進めることで、日本遺産事業に係る財源確保の仕組みを拡大し、更なる地域の活性化につなげていく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財について、次のとおり、保存修理、美装化、調査・研究、展示、教育普及、公開活用といった多岐にわたる取組みを行うことで、保存と活用の好循環を創出していく。

- ・指定、登録文化財、歴史的風致形成建造物、市指定景観重要建築物等など、従来の文化資源の保存・継承の仕組みの土台の上で、日本遺産ストーリーを通じた、それらの有機的な結びつきについて周知する。更にストーリーの一部である、鎌倉の文化資源の保存・継承、活用の歴史を知ってもらうことで、文化資源を守り伝えることの大切さを広く認識してもらい、市民や来訪者が積極的に構成文化財の保存活動に参加する意識を醸成していく。
- ・構成文化財そのものを知る講座や展示等とあわせて、その文化資源の日本遺産ストーリーの中での位置づけを合わせて周知することで、参加者の視野を広げ、鎌倉の新たな魅

力の発見につなげてもらう。事業の実施にあたっては、構成文化財の関係者や民間事業者などと連携し、必要に応じて参加費を徴収し、構成文化財の保存に還元するなど、持続可能な取組みとする。

- ・国・県・市の指定を受けている文化財（建造物）のうち、保存修理が必要なもの、美装化が必要なものについて、市から助成を行う。
- ・市景観重要建築物等の保存修理・活用のために必要な修繕、又は外観の修景を含めた工事に対する助成金を市から交付する。
- ・市内の都市景観の形成に重要な役割を果たしている建造物について、保全を行い後世へ伝えていくため、鎌倉市景観重要建築物等保全基金を活用し、修繕等を行う。
- ・歴史的風致形成建造物について、保存活用を図るため、必要に応じて耐震調査や耐震設計、内装、外装の修理を含めた工事等を行う。
- ・鎌倉彫について、鎌倉彫振興事業所の維持管理、伝統鎌倉彫事業協同組合が行う鎌倉彫創作展、小・中学生の体験教室等を一部助成する。
- ・歴史的遺産や文化財を確実に未来へ引き継ぐことを目的としたふるさと寄附金の募集を行い、組織運営及び事業実施の原資とする。返礼品について、構成文化財を活用した魅力的な品を増やす工夫を行うことで、更なる財源の確保を行っていく。
- ・博物館においても構成文化財に係る展示や解説等を行い、保存、調査・研究、展示・教育活動を行う。
- ・フィールドミュージアムにおいて、博物館学芸員が学生や有識者、構成文化財の所有者、地域の人々やボランティアガイド等と共にフィールドワークグループを組織し、学術的かつ悉皆的な市内の歴史遺産の調査を実施する。この活動に幅広い関係者が加わることで、歴史遺産の保存に係る意識を醸成するとともに、ボランティアガイドに学術的な知見を蓄積することで、ガイド事業を通じた歴史遺産の活用事業にも波及させていく。
- ・流鏝馬や鎌倉彫等に触れられる機会が設けられるよう、技術の担い手と協力し、伝統文化の普及啓発と継承を図る。
- ・大学等と連携し、VR等の先進技術を活用した構成文化財の見える化を推進し、体験を通じた保存への意識の醸成を図る。
- ・市内外を問わず、小中学校授業へ日本遺産関連資料の提供を行い、鎌倉の歴史や文化への深い理解を得ることで、郷土愛の醸成を行うとともに、将来的な担い手の確保へとつなげていく。
- ・『鎌倉市歴史的風致維持向上計画』にも記載のとおり社寺は「生きている歴史的遺産」として現在も文化資源において宗教活動を続けているほか、登録有形文化財や市景観重要建築物等の文化資源についても、既に民間事業者が飲食店や店舗等に活用いただいているところであり、今後も活用を促進することで、継承につなげていく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	日本遺産いざ鎌倉協議会の組織整備		
概要	円滑な事業実施に係る推進体制の維持及び強化、財源の確保		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産いざ鎌倉協議会の持続的運営及び事業の推進	日本遺産事業推進検討会の進捗管理のもと、プロジェクトチームが事業を実施し、事業推進担当者が連絡調整を行い、民間事業者も参画して事業を実施する。また、ここでの実績を元に日本遺産プロデューサーを擁立する。	協議会
②	民間事業者との協力体制の構築	民間事業者と協力してイベント等を行い、構成文化財に係る技術を受け継ぐ人材の確保と育成を図るとともに、講座の開催や体験教室等の商品化を進め、財源を確保していく。また、日本遺産ロゴマークを関連商品の販売の際に活用いただくことで、地域活性化を促す。	協議会・民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	協議会等の開催数		実績値 1
2023			実績値 14
2024			実績値 25
2025	中核となる組織又は個人が企画・実施した事業数		目標値 7
2026			目標値 7
2027			目標値 7
2028			目標値 7
2029			目標値 7
2030			目標値 7
事業費	2025 年度 : 25,809 千円 2026 年度 : 13,780 千円 2027 年度 : 13,780 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産事業推進検討会による事業進捗管理のもと、プロジェクトチームにおいて事業を実施し、事業実施担当者が連絡調整を行うとともに、民間事業者も参画し、円滑に事業を実施する。構成文化財を活用した魅力的なふるさと寄附金の返礼品を増やし、財源を確保する。		
事業費	2028 年度 : 13,780 千円 2029 年度 : 13,780 千円 2030 年度 : 13,780 千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	戦略立案のための統計データ収集、行政計画への位置づけ		
概要	市内観光に係る統計データを収集し、日本遺産に係る企画立案に活用する。関係行政計画と日本遺産の関係性を整理し、計画に掲載する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	鎌倉市観光基本計画推進委員会との連携	観光基本計画推進委員会（附属機関）において学識者、神社庁及び鎌倉市仏教会とも連携し、日本遺産に係る取組みについて協議を行い、鎌倉市の観光課題を踏まえ、次期計画に位置付ける。	鎌倉市・観光基本計画推進委員会
②	他の行政計画への位置づけ	総合計画をはじめとした他の行政計画と日本遺産の関係性を整理し、鎌倉市の観光課題を踏まえ、次期計画に位置付ける。	鎌倉市
③	市内観光統計データの収集及び公開活用	市内の観光に係る統計データを収集、公開するとともに、取得データを時間と場所の分散化や滞在時間の延長等、本市の観光課題の解決に係る日本遺産事業の企画立案に活用する。	協議会構成団体・神奈川県観光振興対策協議会
④	ふるさと寄附金による運営財源の確保	歴史的遺産や文化財を確実に未来へ引き継ぐことを目的としたふるさと寄附金を募集し、組織運営、事業実施の原資とする。	鎌倉市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	関係協議会等の開催回数		実績値 4回
2023			実績値 4回
2024			実績値 7回
2025	関係協議会等の開催回数		目標値 7回
2026			目標値 4回
2027			目標値 4回
2028			目標値 4回
2029			目標値 4回
2030			目標値 4回
事業費	2025年度：3,990千円 2026年度：3,990千円 2027年度：3,990千円		
継続に向けた事業設計	鎌倉市総合計画、観光基本計画をはじめとする行政計画へ日本遺産を位置づけることで事業の継続性を確保する。統計データを収集、蓄積し、日本遺産事業の企画立案に活用し、持続可能な事業実施の糧とする。		
事業費	2028年度：3,990千円 2029年度：3,990千円 2030年度：3,990千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3-A)

事業名	地域プレイヤー人材の確保・育成		
概要	日本遺産構成文化財を紹介する地域プレイヤーの活動支援を行う。また、地域で活躍している人材・事業者と連携し事業を推進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド団体との連携事業の実施	日本遺産をテーマとしたガイド事業を協議会とガイド団体が協力して行う。	協議会・ガイド団体
②	ガイド団体のガイド養成講座に対する研修支援	ガイド団体が実施する新規ガイド養成講座において、日本遺産についての講義を行う。また、ガイドにも更に深く日本遺産を知っていただくことを目的に、ガイド向けテキストの作成、頒布を行う。	協議会
③	博物館等での構成文化財に係る知見の収集と分析	地域とともに学術的な現地調査を実施し、市内に点在する歴史遺産の把握と再発見を目指す。この活動で得られた知見を教育や観光の資源として活用していく。また地域の人々の郷土愛を育む。	鎌倉市教育委員会
④	地域プロデューサーの擁立	日本遺産事業推進担当者の経験の蓄積をもとに、地域プロデューサーを擁立し、コンテンツの活用・収益事業化につなげる。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産の案内を行うガイド数		実績値 116
2023			実績値 214
2024			実績値 580
2025	日本遺産の案内を行うガイド数		目標値 590
2026			目標値 600
2027			目標値 610
2028			目標値 620
2029			目標値 630
2030			目標値 640
事業費	2025年度：27,643千円 2026年度：27,643千円 2027年度：27,643千円		
継続に向けた事業設計	ガイドが解説を行うことで、来訪者により分かりやすく日本遺産を周知するため、協議会と民間とが連携して取組みを行う。ガイド養成講座やガイド向けテキストの頒布、学術的な現地調査へのガイドの参加により知見を蓄積し、持続可能な取組みとする。		
事業費	2028年度：27,643千円 2029年度：27,643千円 2030年度：27,643千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	受入環境の整備		
概要	来訪者が鎌倉のストーリーを快適に体験し、深く理解できる環境を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	多言語観光案内板の整備、改修及び修繕	必要に応じて文化財の由来を記載した多言語観光案内板を整備するとともに、構成文化財までのルートを示す案内板等、既存の案内板等の改修を行う。	鎌倉市
②	混雑情報の発信やモデルルートの提案等による混雑対策の実施	市内の混雑状況を発信する「鎌倉観光混雑マップ」を公開する。また、徒歩や公共交通機関を利用して構成文化財を巡るモデルルートをサブストーリーとあわせて発信することで、分かりやすく快適に日本遺産ストーリーを体験できる仕組みを維持する。	協議会・観光協会
③	観光案内所の運営	観光客の受け入れ体制の充実を図り、国内外から訪れる観光客の利便に供することを目的とし、観光総合案内所及び日本遺産「いざ、鎌倉」観光案内所を運営する。	鎌倉市・協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	観光客の満足度		実績値 86.5
2023			実績値 87.0
2024			実績値 85.0
2025	観光客の満足度		目標値 86.0
2026			目標値 86.5
2027			目標値 87.0
2028			目標値 87.5
2029			目標値 88.0
2030			目標値 88.5
事業費	2025年度：38,336千円 2026年度：38,336千円 2027年度：38,336千円		
継続に向けた事業設計	鎌倉市観光協会やガイド団体との連携の中で、来訪者に必要とされている情報を収集し、案内板等の整備やモデルルートの提案にも生かしていく。		
事業費	2028年度：38,336千円 2029年度：38,336千円 2030年度：38,336千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産を活用した観光コンテンツの充実		
概要	ガイド団体や民間事業者等と連携し、日本遺産ストーリーを体験できるツアーや講座を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ツアーの実施	ガイド団体と協力し、構成文化財を歩いて巡るツアーを開催し、交通混雑の緩和に貢献するとともに、日本遺産ストーリーを体験していただく取組みを実施する。	協議会・ガイド団体 観光協会
②	日本遺産を巡るモデルルートを紹介	鎌倉観光公式ガイド内の日本遺産特設サイトや観光案内所において、公共交通機関で構成文化財を巡るモデルルートを紹介する。	協議会
③	鎌倉彫体験教室	構成文化財である鎌倉彫の制作体験を提供する。	民間事業者
④	構成文化財に係る特別解説講座の実施	構成文化財についてより深く学ぶことのできる講座を開催する。	観光協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産関連ツアー催行回数		実績値 3回
2023			実績値 3回
2024			実績値 5回
2025	日本遺産関連ツアー催行回数		目標値 5回
2026			目標値 6回
2027			目標値 6回
2028			目標値 7回
2029			目標値 7回
2030			目標値 8回
事業費	2025年度：100千円 2026年度：100千円 2027年度：100千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財を巡るツアーを継続的に実施できるようガイド団体と協議を重ねる。構成文化財に係るツアー、体験教室や講座については有料での実施とするなど、財源の確保に努める。		
事業費	2028年度：100千円 2029年度：100千円 2030年度：100千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	日本遺産普及啓発事業		
概要	教育や生涯学習への働きかけ、イベント実施を通じて、鎌倉の歴史文化への理解や日本遺産の認知を促進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	市内小中学校、生涯学習における講義や授業支援	従来の郷土学習に加え、日本遺産に係る出前事業、校外学習等を行い、理解促進を図る。	鎌倉市・協議会
②	市内におけるシンポジウム等の開催	地域の人々の郷土愛を育み、歴史遺産の持続可能な保存活用へ結び付けられるよう、日本遺産をテーマとしたシンポジウムや周知イベント等を開催する。	協議会
③	包括連携大学との連携	協議会構成団体と包括連携協定を結んでいる大学と連携し、日本遺産を知っていただく講義の実施、副教材としてのブックレット配布などを行い、学生の視点での解釈を促す。	協議会構成団体・大学
④	博物館における構成文化財に係る理解促進	博物館における構成文化財に係る展示及び解説により、理解を深める。	教育委員会・民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	鎌倉観光文化検定受験者数		実績値 820名
2023			実績値 732名
2024			実績値 719名
2025	教育機関、生涯学習団体等への講義回数		目標値 7回
2026			目標値 7回
2027			目標値 8回
2028			目標値 8回
2029			目標値 9回
2030			目標値 9回
事業費	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円		
継続に向けた事業設計	教育機関や生涯学習との連携では、講義等で一方的に日本遺産に触れる機会を提供するだけでなく、受講者側からも日本遺産に係る新たな視点を提示いただくことで、持続可能な取組みとする。		
事業費	2028年度：300千円 2029年度：300千円 2030年度：300千円		
継続に向けた事業設計	同上		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	観光情報の発信		
概要	鎌倉の日本遺産ストーリー、構成文化財に係る情報に誰もが容易にアクセスできるよう、多様な媒体で情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	インターネットを活用した情報発信	HP「鎌倉観光公式ガイド」における日本遺産紹介ページの充実やSNSの発信を行い、来訪者の分散化や宿泊観光の推進など日本遺産事業を通じた観光課題の解決を図る。	協議会・観光協会
②	日本遺産関連資料の配布	来訪者が実際に手に取り、持ち帰ることができるよう、鎌倉の日本遺産を紹介するブックレット、マップを作成し、観光案内所等での配布、教育現場への提供、イベントでの配布を行う。	協議会
③	多言語に対応した情報発信	インターネット、印刷物、どちらも多言語対応が可能な状態を維持する。	協議会
①	日本遺産の日等各種イベントへの出展	日本遺産の日等のイベントに参加し、鎌倉の日本遺産の普及を図る。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	観光マップ配布数		実績値 26万枚
2023			実績値 35万枚
2024			実績値 37万枚
2025	鎌倉観光公式ガイドのPV数		目標値 650万回
2026			目標値 655万回
2027			目標値 660万回
2028			目標値 665万回
2029			目標値 670万回
2030			目標値 675万回
事業費	2025年度：6,293千円 2026年度：6,293千円 2027年度：6,293千円		
継続に向けた事業設計	協議会、観光協会、構成文化財所有者、民間事業者等の関係者の情報共有を密に図り、情報のアップデートや発信方法に係る創意工夫を行っていく。各種イベントへの出展にあたっては、民間事業者の出展も促し物販等も行うことで持続可能な取組みとする。		
事業費	2028年度：6,293千円 2029年度：6,293千円 2030年度：6,293千円		
継続に向けた事業設計	同上		